

青森県経済統計報告

平成 23 年 8 月 3 日
企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口（平成 23 年 7 月 1 日現在）…………… 1

県人口	1,364,070 人（対前月 381 人 減少）
自然動態	406 人減少（出生者数 853 人、死亡者数 1,259 人）
社会動態	25 人増加（転入者数 1,503 人、転出者数 1,478 人）

2 本県の経済動向（平成 23 年 5 月・6 月の経済指標を中心として）

（1）経済概況

本県経済は、東日本大震災による影響が依然として続いているが、生産設備復旧などにより、回復の動きがみられる。

（2）主要経済指標の動向

- (2-1) 製造業の 平成 23 年 5 月の青森県鉱工業生産指数(平成 17 年=100)は、季節調整済 … 2
生産動向 指数が 85.3 で、前月比 4.3%の上昇となり、2 ヶ月連続で前月を上回った。また、原指数は 83.2 で、前年同月比 19.6%の低下となり、3 ヶ月連続で前年同月を下回った。
- (2-2) 雇用情勢 平成 23 年 5 月の定期給与は 216,128 円で前年同月比 1.6%減となった。 … 3
総実労働時間は 149.2 時間で前年同月比 0.9%増、所定外労働時間は 8.6 時間で前年同月比 1.2%増となった。
平成 23 年 6 月の有効求人倍率（季節調整値）は 0.38 倍で、前月比 0.01 ポイント上回った。
- (2-3) 物 価 平成 23 年 6 月の青森市消費者物価指数（平成 17 年=100）は、総合指数が … 4
100.8 となり、前月と同水準、前年同月比 0.8%の上昇となった。
- (2-4) 個人消費 平成 23 年 5 月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが 141 億 6,300 万円 … 5
で前年同月比 0.1%増となり、3 ヶ月ぶりに前年同月を上回った。また、既存店ベースでは 0.4%減となり、3 ヶ月連続で前年同月を下回った。
平成 23 年 6 月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は 3,457 台で、前年同月比 9.6%減となり、10 ヶ月連続で前年同月を下回った。
- (2-5) 住宅建設 平成 23 年 6 月の新設住宅着工戸数は 488 戸で、前年同月比 13.5%減とな … 6
り、2 ヶ月連続で前年同月を下回った。
- (2-6) 電 力 平成 23 年 6 月の大口電力使用量は 2 億 100 万 kWh で、前年同月比 10.2% … 6
使用量 減となり、5 ヶ月連続で前年同月を下回った。

（3）景気動向指数 C I（平成 23 年 5 月分）…………… 7

先行指数	99.1（前月を 4.4 ポイント上回り、2 か月連続で上昇した）
一致指数	95.3（前月を 7.5 ポイント上回り、4 か月ぶりに上昇した）
遅行指数	94.9（前月を 0.4 ポイント上回り、2 か月ぶりに上昇した）

（4）青森県景気ウォッチャー調査（平成 23 年 7 月期）…………… 8

- 3 ヶ月前と比べた景気の現状判断 D I …… 54.2（前期比 39.6 ポイント増、16 期ぶりに 50 を上回る）
3 ヶ月後の景気の先行き判断 D I …… 53.6（前期比 23.5 ポイント増、16 期ぶりに 50 を上回る）

1 青森県の推計人口（平成23年7月1日現在）

【概 況】

平成23年7月1日現在の本県推計人口は、1,364,070人で、前月に比べ381人の減少となった。

○自然動態

出生者数が853人、死亡者数が1,259人で、406人の減少となった。

○社会動態

転入者数が1,503人、転出者数が1,478人で、25人の増加となった。

総人口の推移

（単位：人）

	総 数	男	女	対前月 増減率	増減数	自然 増減数	出生者数	死亡者数	社会 増減数	県外からの 転入者数	県外への 転出者数
昭45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平 2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22. 7. 1	1,372,661	644,444	728,217	-0.034%	-471	-410	879	1,289	-61	1,281	1,342
22. 8. 1	1,372,201	644,184	728,017	-0.034%	-460	-382	845	1,227	-78	1,681	1,759
22. 9. 1	1,371,674	643,932	727,742	-0.038%	-527	-637	826	1,463	110	1,977	1,867
22.10.1	1,373,164	-	-	-	-409	-487	810	1,297	78	1,571	1,493
22.11.1	1,372,572	-	-	-0.043%	-592	-425	820	1,245	-167	1,373	1,540
22.12.1	1,371,844	-	-	-0.053%	-728	-689	765	1,454	-39	1,216	1,255
23. 1. 1	1,371,258	-	-	-0.043%	-586	-575	742	1,317	-11	1,151	1,162
23. 2. 1	1,370,442	-	-	-0.060%	-816	-759	830	1,589	-57	1,057	1,114
23. 3. 1	1,369,568	-	-	-0.064%	-874	-620	681	1,301	-254	1,011	1,265
23. 4. 1	1,365,753	-	-	-0.279%	-3,815	-782	797	1,579	-3,033	2,884	5,917
23. 5. 1	1,364,832	-	-	-0.067%	-921	-600	738	1,338	-321	3,906	4,227
23. 6. 1	1,364,451	-	-	-0.028%	-381	-528	879	1,407	147	2,223	2,076
23. 7. 1	1,364,070	-	-	-0.028%	-381	-406	853	1,259	25	1,503	1,478

6月中の人口動態の推移

（単位：人）

年 月	平13.6	14.6	15.6	16.6	17.6	18.6	19.6	20.6	21.6	22.6	23.6
自然動態	出生者数	1,005	967	992	985	831	910	812	862	780	853
	死亡者数	1,008	1,011	1,045	1,064	1,151	1,189	1,173	1,219	1,318	1,259
	自然増減数	-3	-44	-53	-79	-320	-279	-361	-357	-538	-406
社会動態	県外からの 転入者数	1,451	1,406	1,559	1,413	1,434	1,345	1,233	1,366	1,468	1,503
	県外への 転出者数	1,658	1,655	1,637	1,729	1,782	1,807	1,742	1,715	1,477	1,478
	社会増減数	-207	-249	-78	-316	-348	-462	-509	-349	-9	25
増減数計		-210	-293	-131	-395	-668	-741	-870	-706	-547	-381

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17年は国勢調査人口（確定値）。

※2 平成22年7月1日から平成22年9月1日までの人口は平成17年国勢調査人口（確定値）を基礎に、平成22年11月以降の人口は平成22年国勢調査人口速報集計結果（総務省統計局 平成23年2月25日）を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17年が前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 平成22年10月1日現在の人口は、平成22年国勢調査人口速報集計結果（総務省統計局 平成23年2月25日）を用いているため、9月1日現在の推計人口に9月中の増減数を加えた数値とは一致しない。

※5 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

2 本県の経済動向

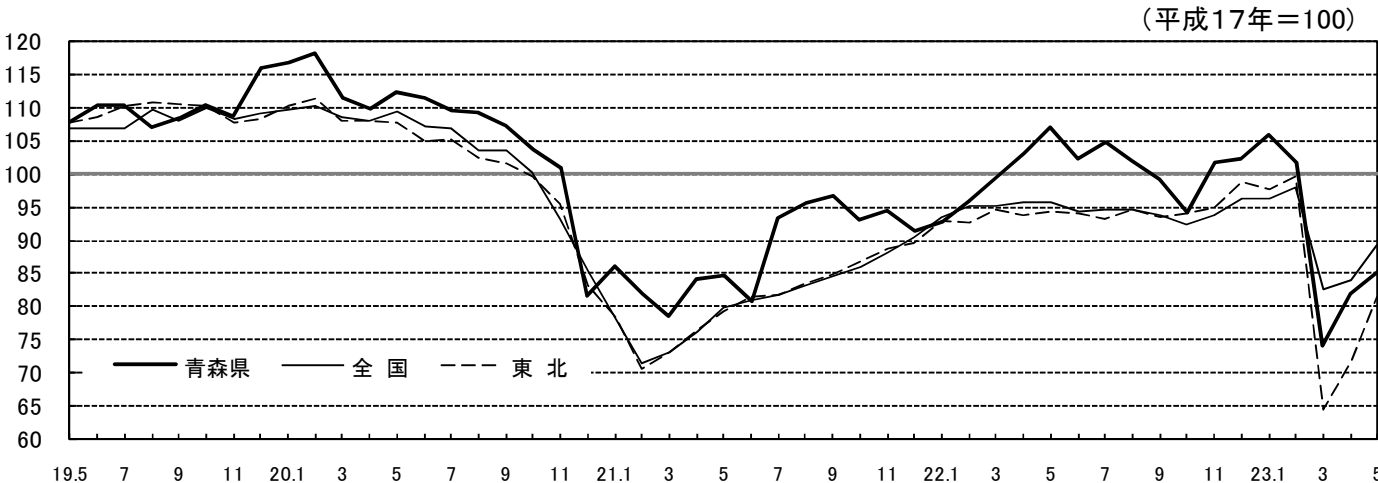
(2) 主要経済指標の動向

(2-1) 製造業の生産

平成23年5月の青森県鉱工業生産指数(平成17年=100)は、季節調整済指数が85.3で、前月比4.3%の上昇となり、2ヶ月連続で前月を上回った。また、原指数は83.2で、前年同月比19.6%の低下となり、3ヶ月連続で前年同月を下回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、一般機械工業、鉄鋼業、輸送機械工業などが上昇に寄与した一方、電気機械工業、化学工業、電子部品・デバイス工業などが低下し、鉱工業全体では4.3%の上昇となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移(季節調整済指数)

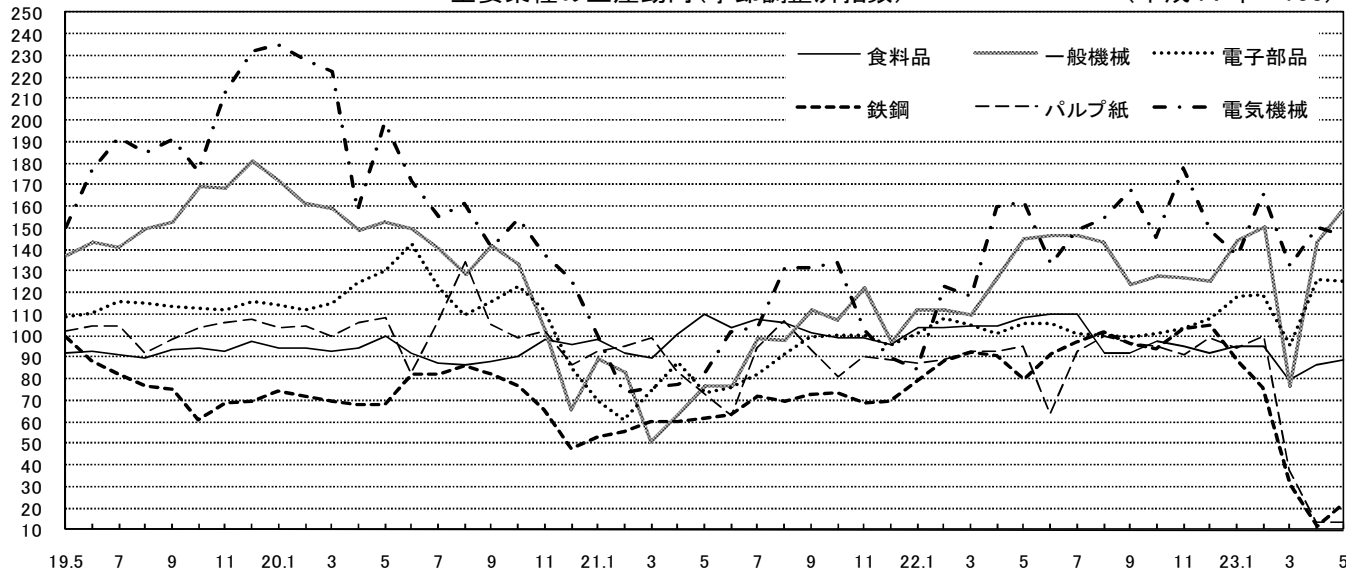


◎業種別動向(前月比) 鉱工業全体 4.3%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
一般機械工業	10.1	37.5	電気機械工業	-2.5	-4.3
鉄鋼業	79.8	19.9	化学工業	-5.2	-2.8
輸送機械工業	72.2	11.1	電子部品・デバイス工業	-0.9	-2.5
金属製品工業	11.0	10.7	石油・石炭製品工業	-30.2	-1.8
食料品工業	2.3	9.3	情報通信機械工業	-25.4	-1.1

主要業種の生産動向(季節調整済指数)

(平成17年=100)



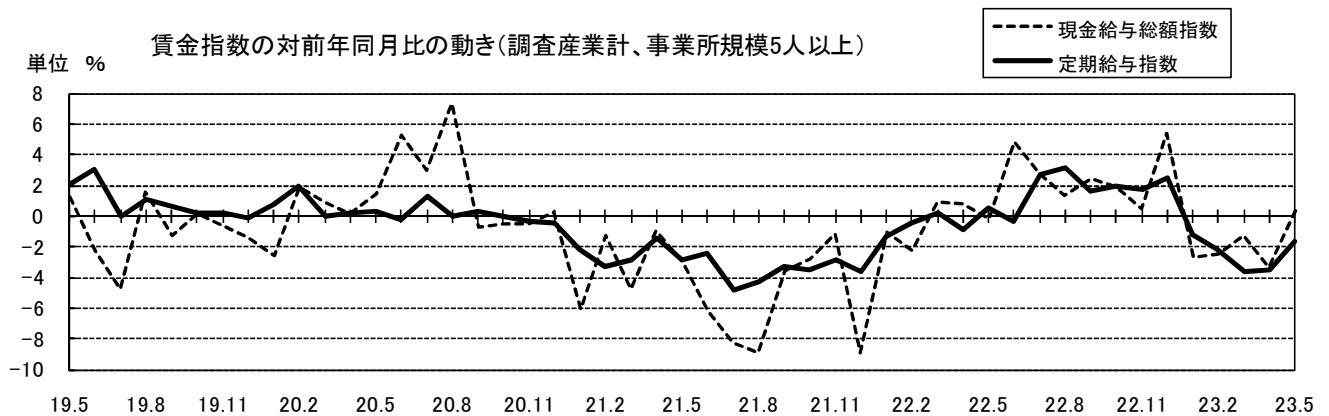
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-2) 雇用情勢

平成23年5月の定期給与は216,128円で定期給与指数(平成17年=100)では93.9となり、前年同月比1.6%減(現金給与総額221,413円、現金給与総額指数81.2、前年同月比0.4%増)となった。実額で比較した定期給与の全国対比は83.1となった。

総実労働時間は149.2時間で、総実労働時間指数は93.7となり、前年同月比0.9%増となった。このうち、所定外労働時間は8.6時間で、所定外労働時間指数は86.9となり、前年同月比1.2%増となった。

平成23年6月の有効求人倍率(季節調整値)は0.38倍で、前月比0.01ポイント上回った。



賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

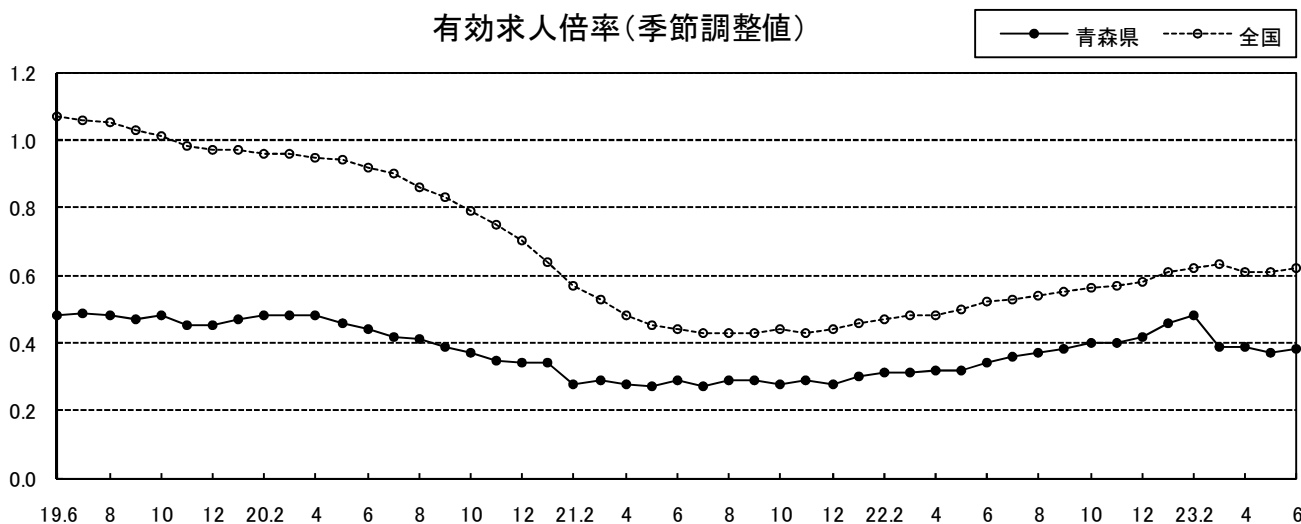
	実 数		指数(H17=100)		対前年同月増減率	
	県	全 国	県	全 国	県	全 国
現金給与総額	221,413 円	271,175 円	81.2	81.8	0.4 %	1.0 %
定 期 給 与	216,128 円	260,166 円	93.9	96.3	-1.6 %	-0.6 %
特 別 給 与	5,285 円	11,009 円	—	—	—	60.7 %
総実労働時間	149.2 時間	139.0 時間	93.7	92.2	0.9 %	-0.4 %
所定内労働時間	140.6 時間	129.6 時間	94.1	92.5	0.7 %	-0.3 %
所定外労働時間	8.6 時間	9.4 時間	86.9	88.7	1.2 %	-2.1 %

(注)1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。

2.前年同月比は指数によって算出している。

3.平成22年1月分から、平成19年11月改訂の日本標準産業分類に基づいて結果の公表をしています。

資料:県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」



資料:青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」

(2-3) 物価

平成23年6月の青森市消費者物価指数（平成17年=100）は、総合指数が100.8となり、前月と同水準、前年同月と比べ0.8%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は100.7となり、前月と比べ0.2%の下落、前年同月と比べ1.5%の上昇となった。

食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数は96.4となり、前月と比べ0.1%の下落、前年同月と比べ0.5%の上昇となった。

総合指数が前月と比べ同水準となった内訳を寄与度でみると、食料などの上昇、交通・通信などの下落が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ0.8%の上昇となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道、諸雑費などの上昇が要因となっている。

図1 総合指数の動き

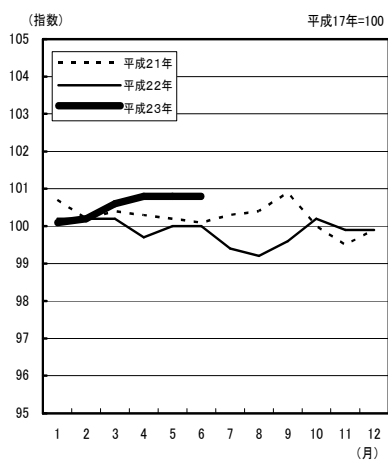


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

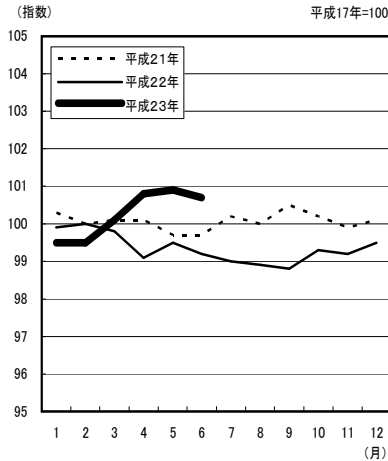
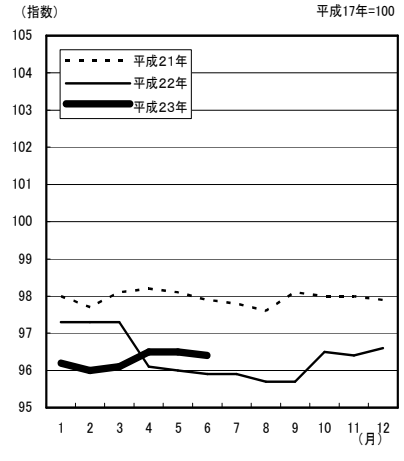


図3 食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成17年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	持家の 帰属家賃を除く総合	食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
当月指数	100.8	100.7	101.4	96.4	102.0	102.4	98.1	118.4	89.3	103.8	98.4	101.4	73.0	92.5	107.9
前月比(%)	0.0	▲0.2	0.0	▲0.1	0.4	3.0	0.0	0.3	▲0.7	0.4	0.7	▲0.9	0.0	▲0.4	▲0.8
寄与度	—	▲0.19	0.00	▲0.06	0.11	0.17	0.00	0.03	▲0.02	0.02	0.03	▲0.10	0.00	▲0.04	▲0.05
前年同月比(%)	0.8	1.5	0.9	0.5	▲2.1	▲9.5	0.1	8.4	▲2.1	▲0.2	0.3	1.7	0.1	0.3	6.7
寄与度	—	1.42	0.76	0.32	▲0.63	▲0.61	0.02	0.92	▲0.06	▲0.01	0.01	0.18	0.00	0.03	0.38

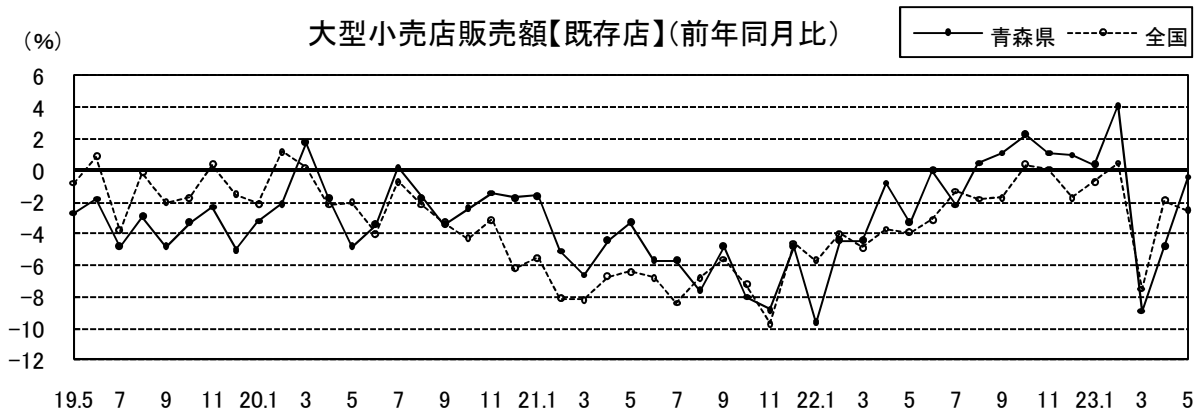
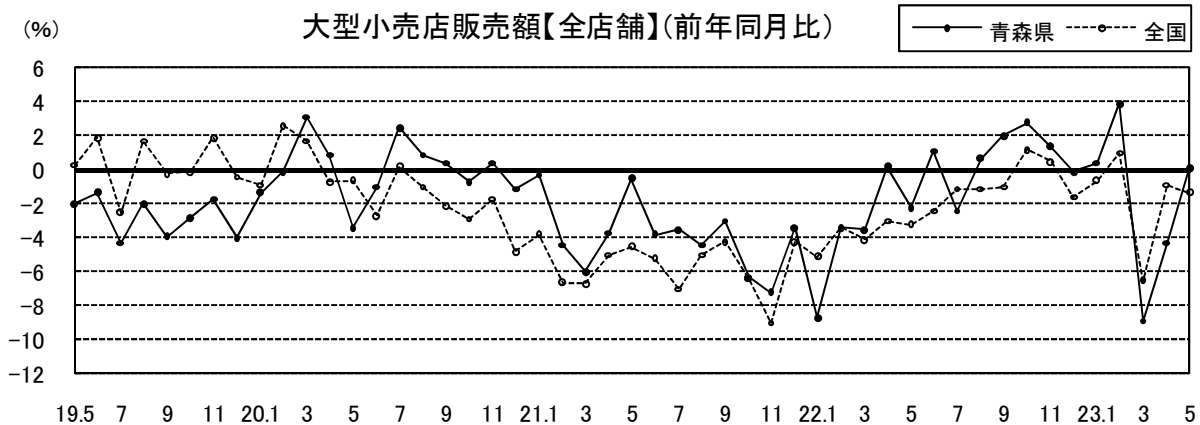
資料：県統計分析課「消費者物価指数月報」

※ 寄与度とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比（％）の値に一致する。

(2-4) 個人消費

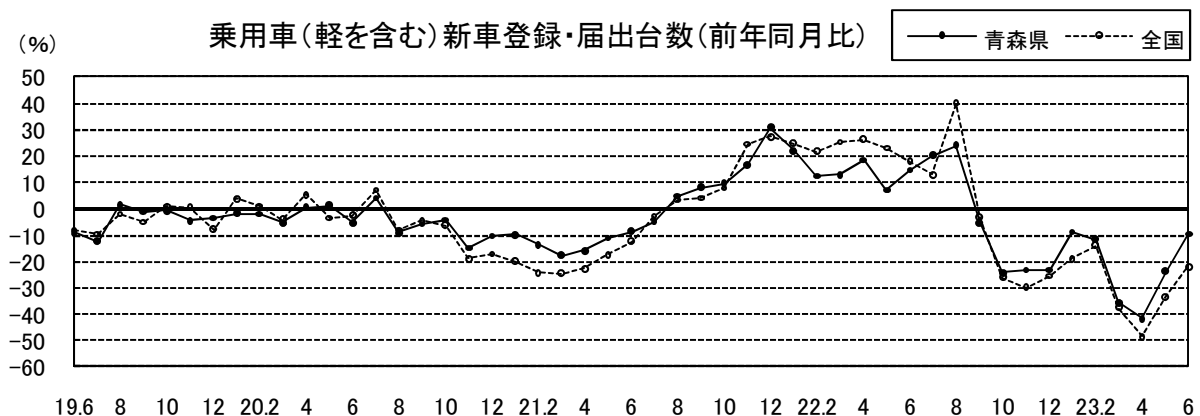
平成23年5月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが141億6,300万円で前年同月比0.1%増となり、3ヶ月ぶりに前年同月を上回った。また、既存店ベースでは0.4%減となり、3ヶ月連続で前年同月を下回った。東日本大震災の影響により、衣料品などが低調であったことによる。

平成23年6月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は3,457台で、前年同月比9.6%減となり、10ヶ月連続で前年同月を下回った。東日本大震災等の影響により、普通車、小型車、軽乗用車いずれも減少したことによる。



資料：東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」

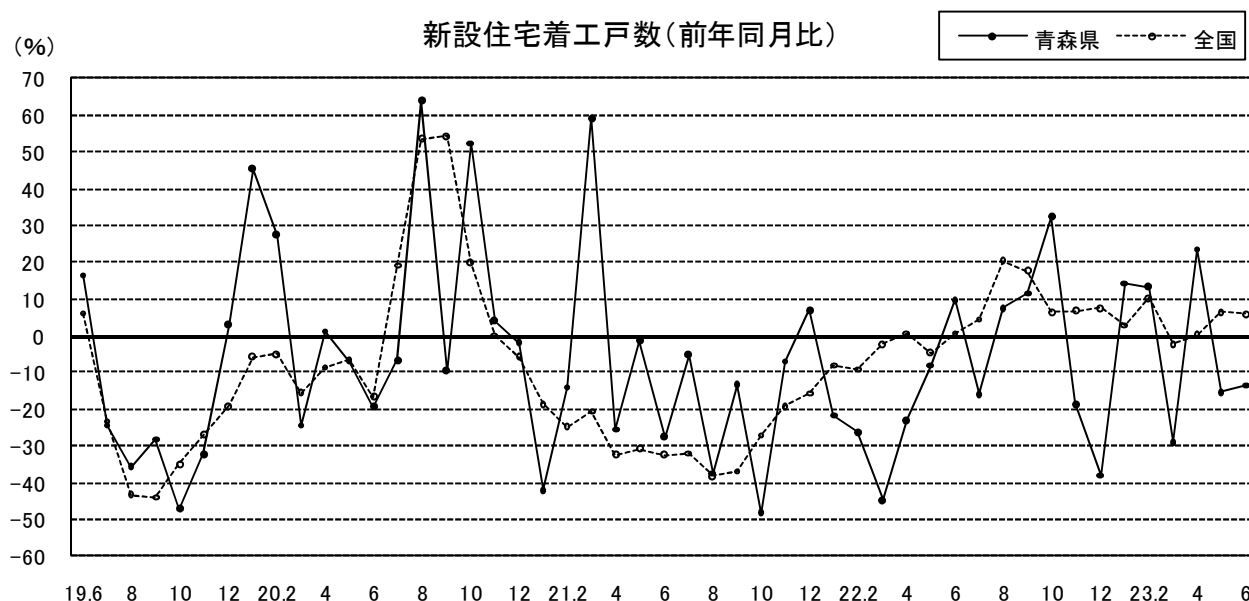
- * 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。
そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。



資料：青森県自動車会議所「車種別登録・届出台数」、日本自動車販売協会連合会「自動車統計データ」

(2-5) 住宅建設

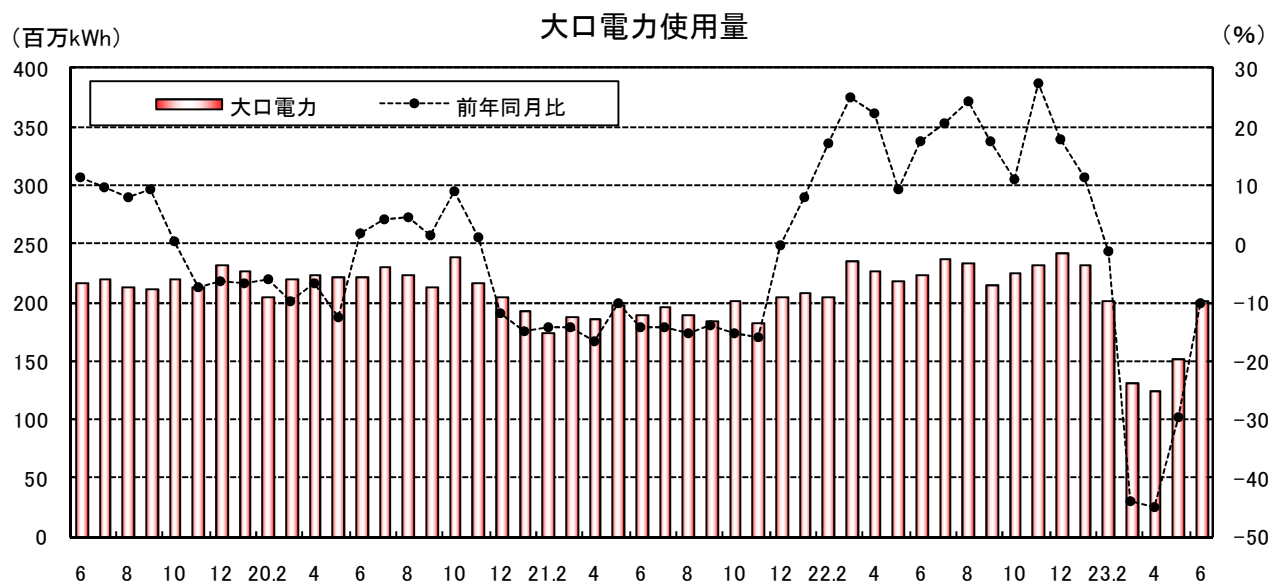
平成23年6月の新設住宅着工戸数は488戸で、前年同月比13.5%減となり、2ヶ月連続で前年同月を下回った。分譲住宅が増加したものの、持家、貸家、給与住宅が減少したことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

(2-6) 電力使用量

平成23年6月の大口電力使用量は2億100万kWhで、前年同月比10.2%減となり、5ヶ月連続で前年同月を下回った。東日本大震災の影響により、製造業を中心に減少したことによる。



資料：東北電力(株)青森支店「電力需要実績」

(3) 青森県景気動向指数

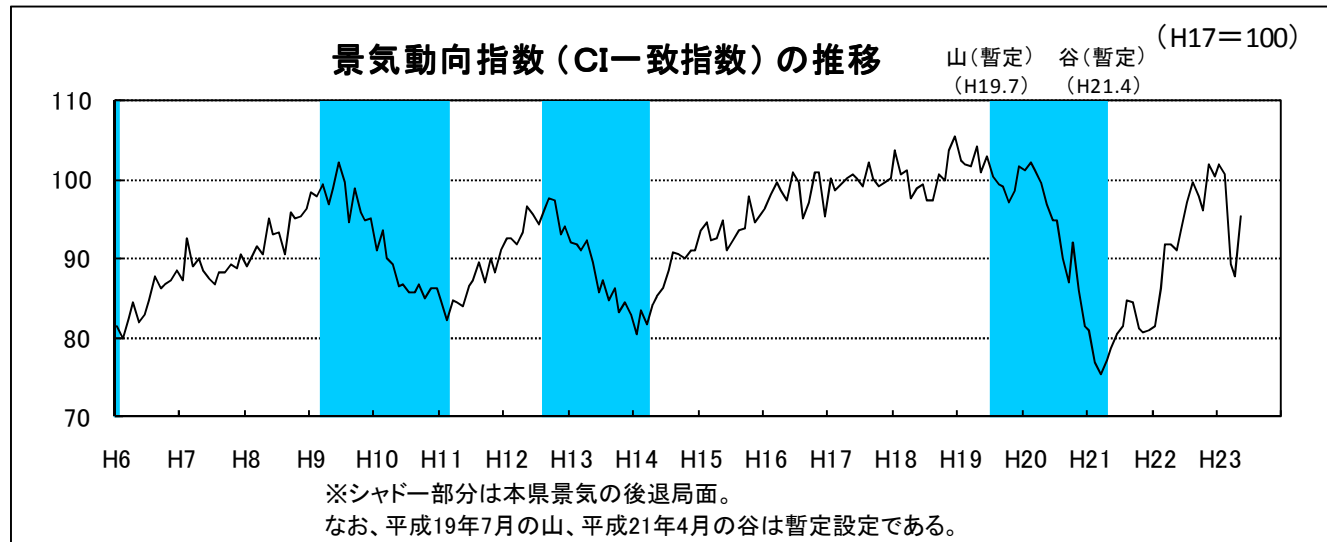
平成23年5月の青森県景気動向指数（CI）は、先行指数99.1、一致指数95.3、遅行指数94.9となった。

先行指数は、前月を4.4ポイント上回り、2か月連続で上昇した。

一致指数は、前月を7.5ポイント上回り、4か月ぶりに上昇した。

遅行指数は、前月を0.4ポイント上回り、2か月ぶりに上昇した。

5月の一致指数は、生産、消費、雇用関連等の指標がプラスになったことから、上昇した。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
先行系列					
乗用車新車登録届出台数	2.43	4か月ぶり	新設住宅着工床面積	-0.97	2か月ぶり
所定外労働時間指数	1.71	4か月ぶり	建築着工床面積	-0.65	3か月ぶり
企業倒産負債額	1.05	2か月連続	入職率（製造業）	-0.48	2か月ぶり
中小企業景況D I	0.75	2か月連続	新規求人倍率（全数）	-0.16	2か月ぶり
生産財生産指数	0.74	2か月連続			
一致系列					
海上出入貨物量（八戸港）	1.75	4か月ぶり	電気機械生産指数	-0.26	2か月ぶり
大口電力使用量	1.74	5か月ぶり			
日銀券月中発行高	1.15	2か月ぶり			
大型小売店販売額(既存店)	1.09	2か月連続			
総実労働時間数（全産業）	1.02	4か月ぶり			
鉱工業生産指数	0.76	2か月連続			
有効求人数（全数）	0.28	3か月ぶり			
遅行系列					
輸入通関実績（八戸港）	1.11	2か月連続	勤労者世帯家計消費支出(実質)	-0.74	2か月連続
1人平均月間現金給与総額	0.73	2か月ぶり	青森市消費者物価指数(帰属家賃除く)	-0.46	4か月ぶり
単位労働コスト（製造業）	0.13	2か月ぶり	常用雇用指数（製造業）	-0.39	2か月ぶり

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

（参考）青森県景気動向指数（DI）

先行指数 33.3% （4か月連続で50%を下回った）
一致指数 0.0% （3か月連続で50%を下回った）
遅行指数 41.7% （3か月連続で50%を下回った）

(4) 青森県景気ウォッチャー調査

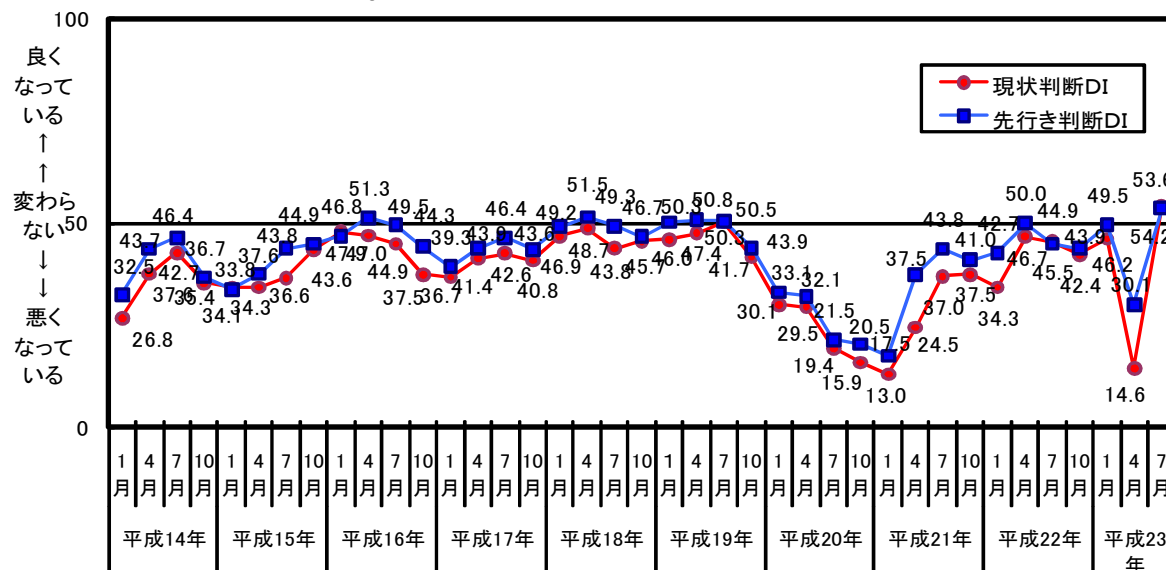
平成23年7月期の景気ウォッチャー調査は、7月1日～7月21日を調査期間とし、回答率は96%となった。

3か月前と比べた景気の現状判断DIは54.2で、前期調査を39.6ポイント上回った。

3か月後の景気の先行き判断DIは53.6で、前期調査を23.5ポイント上回った。

7月期は、景気の現状判断DI、先行き判断DIともに、平成19年7月期以来16期ぶりに、横ばいを示す50を上回った。また、現状判断DI、先行き判断DIともに、DI値及び上げ幅が過去最高となった。

景気現状判断DI・先行き判断DIの推移



● 3か月前と比べた景気の現状判断

動向	<p>前期調査と比べると、「やや良くなっている」が39.6ポイント増加、「悪くなっている」が51.4ポイント減少したことにより、全体では39.6ポイント上昇の54.2となり、景気の横ばいを示す50を平成19年7月期以来16期ぶりに上回った。DI値、上げ幅ともに過去最高となった。</p> <p>判断理由をみると、震災直後の先行き不透明な状況よりは改善基調にあるという声が多くを占めているほか、JRの割引企画によって観光客が増えた、気候がよくなり人出が増えたという声があった。一方で、震災による急激な落ち込みは落ち着いたものの回復は鈍いという声もあった。</p>
向	<p>前期調査と比べて、全地区でポイントが増加し、東青、下北地区では景気の横ばいを示す50となり、津軽、県南地区では50を上回った。</p>

● 3か月後の景気の先行き判断

動向	<p>前期調査と比べると、「やや良くなる」が16.2ポイント、「変わらない」が29.7ポイント増加し、「悪くなる」が38.3ポイント減少したことにより、全体では23.5ポイント上昇の53.6となり、景気の横ばいを示す50を平成19年7月期以来16期ぶりに上回った。DI値、上げ幅ともに過去最高となった。</p> <p>判断理由を見ると、祭りや秋の観光シーズンに期待している、復興支援効果が目に見えてくるのではという声があった。一方で、景気がよくなる要素が見当たらないという声もあった。</p>
向	<p>前期調査と比べて、全地区でポイントが増加し、下北地区では景気の横ばいを示す50となり、東青、津軽、県南地区では50を上回った。</p>

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

● 3 か月前と比べた景気の現状判断理由

◎東京からのお客様が戻った。(観光型ホテル・旅館=県南)

○日々、気温も上昇してきて、街の人出が多くなってきましたし、観光客も多くなってきて、経済効果が上がってきたと思います。(タクシー=東青)

○地震と原発事故で3/11以降、前年比売上が大きく下落。J Rの大人の休日倶楽部等で回復基調(観光名所等=津軽)

○被災地域からの代替需要が加わっている。(食料品製造=県南)

○やや良くなっているとは言うものの、震災当時と比べればという話で、厳しい状況である。(広告・デザイン=県南)

□一時期、震災の特需があったが、一巡した。地デジの駆け込みでテレビが売れている。(家電量販店=東青)

□服飾雑貨、衣料品等が前年を上回る傾向が出てきたが、節約疲れ、ガマン疲れの一過性的な見方をしている。まだまだ部分的で全体感としての景気上向きとは言えない。(百貨店=県南)

□震災後、3カ月経ったが、変わらず、悪い。(食料品製造=下北)

△当方は民事再生申請した地元百貨店との関連が大きい事から、影響をもろに受けている。商店街への来客数の減少が著しい。(商店街=津軽)

×震災とその後の自粛ムードが、業種、業態を問わず、中小企業の体力を消耗させているようだ。(新聞社求人広告=東青)

● 3 か月後の景気の先行き判断理由

◎予約数の上向き。(観光型ホテル・旅館=県南)

○ねぶたまつり、秋の観光等に期待したいと思います。農、漁、人々の生活力、プラス志向に向かっていくと思う。(観光型ホテル・旅館=東青)

○今までの底だった。(レストラン=津軽)

○震災対策などの予算や、復興に関する業界の活性が考えられるため。そこに雇用が生まれることから、上向きになる。(人材派遣=東青)

□今の状況は一時的な震災の反動であり、景気が回復している状況ではない。その根拠として、前年比で売上等が上がっているわけではない。(住宅建設販売=津軽)

□消費者の声を聞くとまだ旅行に出かける気分にはならないという人は依然として多い。(旅行代理店=県南)

□震災後、少しずつ回復はしてきてはいるものの、現状よりは良くなりません。(レストラン=下北)

□政治が停滞しており、政策等の見通しが定められない状況にあるので、今の状態がしばらく続くのではないかと思います。(経営コンサルタント=県南)

△弘前は、りんご農家の方の影響が大きく、今年は、りんごの実が少ないと聞くので。(一般飲食店=津軽)

×高速道路有料化＝観光客の減少。(一般小売店=東青)

記号の意味:◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」